

【健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクト】健康スムージーを活用したまちのにぎわいづくり

交付金対象事業の背景  
と概要

<A. 地方創生として目指す将来像(交付対象事業の背景)>

【背景】

- 須坂市は、保健指導員制度発祥の地であり、住民主体の健康づくりの成果として、長寿日本一の長野県において、19市の中で、要介護認定率及び介護保険料が最も低く、元気な高齢者の多い「健康長寿のまち」を形成している。
- ぶどうやりんごを中心に、全国有数のシェアを誇る国内有数の果樹王国である。また、「ケール」や、「ヤーコン」の健康効果があるといわれる栽培も盛んになりつつある。また、市内には5つの味噌蔵があり、独自の発酵文化を醸成してきた。
- 豊富な農産物と発酵食品を活用し、野菜と果物摂取の促進と健康増進を進めるために市では「オリジナルスムージー」のレシピを開発した。

【将来像】

- 特に若年層の野菜・果物摂取量増加の新たなメニュー開発をして健康増進を図る。
- 果物・野菜の新たな流通経路の確保を行い、農家の収入増につなげる。
- 新たに開発したオリジナルスムージーの普及、販路拡大により、飲食店を中心にした町の賑わいにつなげる。

<B. 地方創生の実現における構造的な課題>

- 国民健康保険の医療費は増加傾向であり、さらなる健康増進の取り組みが必須。
- 野菜、果物の摂取について、厚生労働省ではそれぞれ350g、200gの摂取を推奨しており、生活習慣病予防にもつながることから市としても積極的に推進している。しかしながら、若年層を中心に、果物の消費が低下している。
- スムージー自体は気軽に作れるものであるが、販売するには、専用のミキサーや果物、野菜のストックが必要であり、飲食店にとっては、一定の設備投資も負担となる。またスムージーに対する知識も一定程度必要であることから、小規模店等では販売するのが困難な状況である。

<C. 交付対象事業の概要>

- 須坂市の果樹と野菜と発酵食品を活用した「健康になるスムージー」を普及し、農産物の消費拡大と事業者の活性化を図るために以下の事業を実施したい。
- 信州須坂健康スムージー推進協議会(構成:行政、須坂商工会議所、須坂市商店会連合会、須坂青年会議所、須坂市観光協会、峰の原高原観光協会、須坂旅館組合、須坂菓子工業組合、須坂飲食店組合、八十二銀行、シニア野菜ソムリエ等で構成)を結成し、健康スムージー普及の検討、機能性等を考慮したオリジナルスムージーの開発等を実施する。
- 販売飲食店舗を増やすため、須坂商工会議所等に飲食店への働きかけを委託し、参加飲食店舗の増を目指す。
- 市内飲食店舗のスムージーへの造詣を深めるための研修会等の実施とスムージーを提供する飲食店について、専用ミキサー購入の補助。
- (仮称)須坂スムージーフェスティバルを開催し、知名度向上と飲食店舗を回遊するスキーム、健康スムージーによるムーブメントを構築する。
- 市場ニーズの把握、ターゲットの明確化、野菜・果物の効能、機能性調査のためマーケティングを実施する。
- パッケージとして商品化したスムージーの販売を目指し、事業者の選定、販売ルートの確保を図る。

<D. 交付対象事業が構造的な問題の解決に寄与する理由>

- 各飲食店舗で健康スムージーの消費が拡大することにより、各店舗の収入増につながる。
- 官民共同で実施することにより、健康スムージーのムーブメントを作りだし、「須坂に行ってスムージーを食べ健康になろう」との機運を醸成し、須坂市への来訪者の増を目指す。
- スムージーは、気軽に果物、野菜を摂取できることから、若年層の野菜・果物離れの解消にもつながる。
- 生産者にとっては販売網も増え、生産量、農業収入の増が期待され、さらには新規就農者や就農を目的とした移住も期待され、また地域の活性化にもつながる。
- 商品化したスムージーは、市場にあまり広まっておらず、新規開拓が可能な分野であり、商品化することで新たなビジネスの創出につながる。